

科目名	国際関係論特別講義	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			法学部	□必修 ■選択	
				□必修 □選択	
英文表記	Special lecture on international relations	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	ならおか よしたけ	実務家教員 担当科目	○	修得 単位	2 単位
担当者名	檜岡 善丈	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	本講義は、①国際情勢の講義、②外交実務の現場、③グループワーク、から構成します。				
到達目標	①国際情勢の講義は、今の国際社会においてどのような課題が存在しているか、また日本はどのような外交政策を進めているかについての理解を深めることが目標です。 ②外交実務の現場は、外務省や在外公館における職務の現状等について理解を深めることが目標です。 ③グループワークは、国際関係や国際社会の課題、SDG s をテーマに、学生自身が課題の所在を考え、グループで発表・議論することを目標とします。				
授業概要	①国際情勢の講義は、外務省作成の「外交青書」を基に、現在の国際情勢についての情勢認識と日本外交の取組や展望についてブリーフィングを行います。 ②外交実務の現場は、外務省、在外公館、総理大臣官邸など、教員自身の職務経験に基づく外交実務の現場について実例を挙げながら説明します。将来、国際分野で働くことに関心のある方向けの参考情報も提供します。 ③グループワークは、国際関係や国際社会の課題、SDG s をテーマに、学生自身が課題の所在を調べ、課題解決の方途を考え、発表を行い、グループで議論します。				
授業計画					
第1回（4月19日（土））	イントロダクション（教員・学生の自己紹介・懇談、講義の概要）				
第2回	国際情勢の講義1（情勢認識①）				
第3回	外交実務の現場1（外務省）				
第4回（5月17日（土））	国際情勢の講義2（情勢認識②）				
第5回	外交実務の現場2（在外公館：総論①）				
第6回	グループワーク1（国際関係）				
第7回（5月24日（土））	国際情勢の講義3（日本外交の展望①）				
第8回	外交実務の現場3（在外公館（総論②、各論：トルコ））				
第9回	グループワーク2（国際社会の課題）				
第10回（5月31日（土））	国際情勢の講義4（日本外交の展望②）				
第11回	外交実務の現場4（在外公館（各論：英国、レバノン））				
第12回	グループワーク3（SDG s ①）				
第13回（6月 7日（土））	国際情勢の講義5（日本外交の展望③）				
第14回	外交実務の現場5（内閣総理大臣官邸、内閣官房）				
第15回	グループワーク4（SDG s ②）				
第16回	グループワーク5（SDG s ③）・まとめ				
授業時間外の 学習	グループワークでは、国際関係、国際問題、SDG s について、学生自身が発表を行うための下調べや準備が必要です。				
履修条件 受講のルール	授業は4月～5月の土曜日に計5回行います。授業への参加、及び、グループワークでの発表を重視します。 国際関係論を受講していることが望ましいですが、受講していなくても問題ありません。				
テキスト	適宜レジュメを配布します。				
参考文献・資料	同上				

成績評価の方法	【授業への参加度(50%)、グループワークでの議論・発表(50%)】 授業での質問や発言など授業への積極的な参加(50点)、グループワークでの議論・発表内容(50%)を基本的な評価基準とします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	要望に応じ、授業がある週の土曜日に設けます。
成績評価の基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	私は、1996年に外務省に入省し、外務本省での勤務の他、4つの在外公館（在トルコ大使館、在英国大使館、在ウズベキスタン大使館、在レバノン大使館）や内閣総理大臣官邸等で25年以上にわたり外交実務に携わり、今も外務本省で勤務している現役の職員です。本講義では、最新の国際情勢認識や日本外交の取組等について説明し、また外交実務の現場で実際に行われている仕事の内容をお話し、国際分野で働くことの面白さをお伝えできればと考えております。
学生へのメッセージ	私は秋田市出身です。故郷の秋田・ノースアジア大学で国際関係論を学ぶ皆さんの視点から、お役に立てる内容の講義ができればと思います。外務省や在外公館等での勤務だけでなく、15年以上の外国生活の経験談もお話できますので、将来国際分野で働くことを考えている方、国際関係に関心のある方に積極的に参加していただければ幸いです。